

■植栽造成法面-3の植栽計画

【緑化方針】

- 隣接する残留緑地と生態的・景観的な連続性を図る。
- 落葉広葉樹林と草地の回復・創出を図り、影響を受けた植生や動植物の生育・生息環境の代償とする。

【緑化の内容】

- 小段や平坦部は中木及び低木による植栽を基本とし、平坦部には草地を混生させる。
- 斜面部は低木による植栽を基本とする。
- 植栽樹種は地域の在来種を基本とし、小動物の餌となる樹種も選定し、苗は多摩産を基本とする。



植栽造成法面-3 (7,969.76㎡)

区分	目標植生	種別	凡例	樹種名	本数	備考
平坦部 及び小段	コナラ・ エノキ林	高木 (H=2.0m)		コナラ、エノキ、クヌギ、 ケヤキ、ヤマザクラ、ミズキ等	398	竹1本支柱
		中木 (H=1.2m)		ヒサカキ、ヤブツバキ、 リョウブ、ムラサキシキブ等	478	竹1本支柱
	草地	低茎草地 (H=0.3m)		エノコログサ、メヒシバ、 ノシバ、チガヤ、カタバミ等	-	自然再生
斜面地	コナラ・ エノキ林	高木(苗木) (H=0.5m)		コナラ、エノキ、クヌギ、 ケヤキ、ヤマザクラ、ミズキ等	1,020	
		中木(苗木) (H=0.5m)		ヒサカキ、ヤブツバキ、 リョウブ、ムラサキシキブ等	2,400	
	低木植込	低木 (H=0.5m)		ヤマツツジ、コムラサキ、 ガマズミ、ヤマブキ等	2,400	
	草地	低茎草地 (H=0.3m)		エノコログサ、メヒシバ、 ノシバ、チガヤ、カタバミ等	-	自然再生

\*樹種については上記を基本とし、  
土質条件に合ったものを植栽する。

: 事業区域

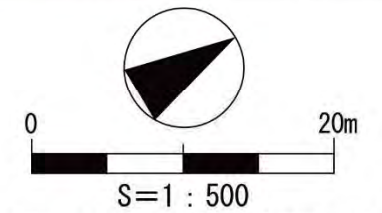


図 3-5-1-6 植栽造成法面-3 緑化計画図

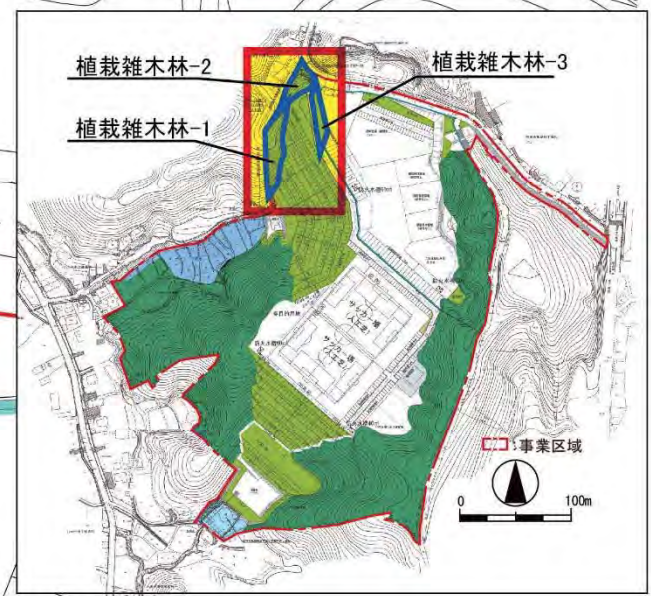
■ 植栽雑木林-1~3の植栽計画

【緑化方針】

- 隣接する残留緑地と生態的・景観的な連続性を図る。
- 落葉広葉樹林と草地の回復・創出を図り、影響を受けた植生や動植物の生育・生息環境の代償とする。

【緑化の内容】

- 小段や平坦部は中木及び低木による植栽を基本とし、平坦部には草地を混生させる。
- 斜面部は低木による植栽を基本とする。
- 植栽樹種は地域の在来種を基本とし、小動物の餌となる樹種も選定し、苗は多摩産を基本とする。



植栽雑木林-1

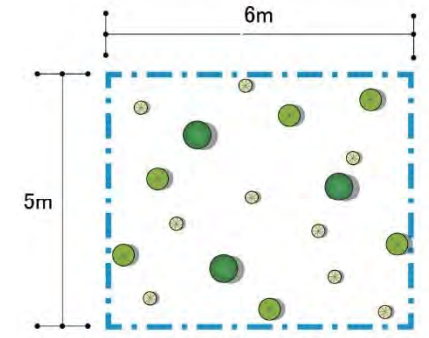
植栽雑木林-3

植栽雑木林-1 (596.73㎡)					
区分	種別	凡例	樹種名	植栽密度	本数(本)
平坦部	高木 (H=2.0m)	●	シラカシ、アラカシ、コナラ、クヌギ、イヌシデ、ヤマザクラ、アカシデ、リョウブ等	1本/10㎡	60
	中木 (H=1.2m)	●	エゴノキ、リョウブ、ヒサカキ、ムラサキシキブ、ヤブツバキ、ヒイラギ等	2本/10㎡	120
	低木 (H=0.5m)	●	アセビ、アオキ、ヤマツツジ、ガマズミ、コムラサキシキブ、マユミ等	3本/10㎡	180

植栽雑木林-2 (295.17㎡)					
区分	種別	凡例	樹種名	植栽密度	本数(本)
平坦部	高木 (H=2.0m)	●	シラカシ、アラカシ、コナラ、クヌギ、イヌシデ、ヤマザクラ、アカシデ、リョウブ等	1本/10㎡	30
	中木 (H=1.2m)	●	エゴノキ、リョウブ、ヒサカキ、ムラサキシキブ、ヤブツバキ、ヒイラギ等	2本/10㎡	60
	低木 (H=0.5m)	●	アセビ、アオキ、ヤマツツジ、ガマズミ、コムラサキシキブ、マユミ等	3本/10㎡	90

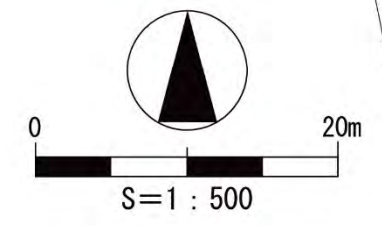
植栽雑木林-3 (145.76㎡)					
区分	種別	凡例	樹種名	植栽密度	本数(本)
平坦部	高木 (H=2.0m)	●	シラカシ、アラカシ、コナラ、クヌギ、イヌシデ、ヤマザクラ、アカシデ、リョウブ等	1本/10㎡	15
	中木 (H=1.2m)	●	エゴノキ、リョウブ、ヒサカキ、ムラサキシキブ、ヤブツバキ、ヒイラギ等	2本/10㎡	30
	低木 (H=0.5m)	●	アセビ、アオキ、ヤマツツジ、ガマズミ、コムラサキシキブ、マユミ等	3本/10㎡	45

凡例	樹高(m)	植栽密度
高木	2.00	3本/30㎡
中木	1.20	6本/30㎡
低木	0.30	9本/30㎡



パターン図 S=1:150

--- : 事業区域



\* 樹種については上記を基本とし、土質条件に合ったものを植栽する。

図 3-5-1-7

植栽雑木林-1, 2, 3  
緑化計画図

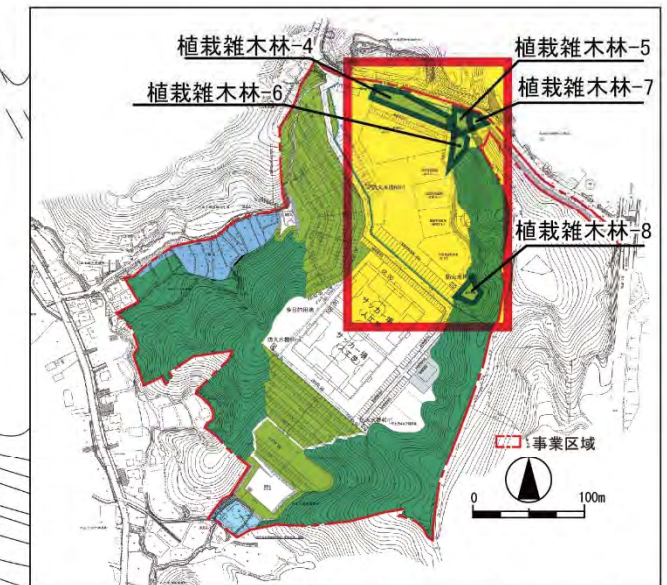
■植栽雑木林-4~8の植栽計画

【緑化方針】

- 隣接する残留緑地と生態的・景観的な連続性を図る。
- 落葉広葉樹林と草地の回復・創出を図り、影響を受けた植生や動植物の生育・生息環境の代償とする。

【緑化の内容】

- 小段や平坦部は中木及び低木による植栽を基本とし、平坦部には草地を混生させる。
- 斜面部は低木による植栽を基本とする。
- 植栽樹種は地域の在来種を基本とし、小動物の餌となる樹種も選定し、苗は多摩産を基本とする。



植栽雑木林-4(520.88㎡)

区分	種別	凡例	樹種名	植栽密度	本数(本)
平坦部	高木 (H=2.0m)	●	シラカシ、アラカシ、コナラ、クヌギ、イヌシデ、ヤマザクラ等	1本/10㎡	52
	中木 (H=1.2m)	●	エゴノキ、リョウブ、ヒサカキ、ムラサキシキブ、ヤブツバキ等	2本/10㎡	104
	低木 (H=0.5m)	●	アセビ、アオキ、ヤマツツジ、ガマズミ、コムラサキシキブ等	3本/10㎡	156

植栽雑木林-5(136.84㎡)

区分	種別	凡例	樹種名	植栽密度	本数(本)
平坦部	高木 (H=2.0m)	●	シラカシ、アラカシ、コナラ、クヌギ、イヌシデ、ヤマザクラ等	1本/10㎡	14
	中木 (H=1.2m)	●	エゴノキ、リョウブ、ヒサカキ、ムラサキシキブ、ヤブツバキ等	2本/10㎡	28
	低木 (H=0.5m)	●	アセビ、アオキ、ヤマツツジ、ガマズミ、コムラサキシキブ等	3本/10㎡	42

植栽雑木林-6(114.78㎡)

区分	種別	凡例	樹種名	植栽密度	本数(本)
平坦部	高木 (H=2.0m)	●	シラカシ、アラカシ、コナラ、クヌギ、イヌシデ、ヤマザクラ等	1本/10㎡	12
	中木 (H=1.2m)	●	エゴノキ、リョウブ、ヒサカキ、ムラサキシキブ、ヤブツバキ等	2本/10㎡	24
	低木 (H=0.5m)	●	アセビ、アオキ、ヤマツツジ、ガマズミ、コムラサキシキブ等	3本/10㎡	36

植栽雑木林-7(36.97㎡)

区分	種別	凡例	樹種名	植栽密度	本数(本)
平坦部	高木 (H=2.0m)	●	シラカシ、アラカシ、コナラ、クヌギ、イヌシデ、ヤマザクラ等	1本/10㎡	4
	中木 (H=1.2m)	●	エゴノキ、リョウブ、ヒサカキ、ムラサキシキブ、ヤブツバキ等	2本/10㎡	8
	低木 (H=0.5m)	●	アセビ、アオキ、ヤマツツジ、ガマズミ、コムラサキシキブ等	3本/10㎡	12

植栽雑木林-8(135.25㎡)

区分	種別	凡例	樹種名	植栽密度	本数(本)
平坦部	高木 (H=2.0m)	●	シラカシ、アラカシ、コナラ、クヌギ、イヌシデ、ヤマザクラ等	1本/10㎡	14
	中木 (H=1.2m)	●	エゴノキ、リョウブ、ヒサカキ、ムラサキシキブ、ヤブツバキ等	2本/10㎡	28
	低木 (H=0.5m)	●	アセビ、アオキ、ヤマツツジ、ガマズミ、コムラサキシキブ等	3本/10㎡	42

\*樹種については上記を基本とし、土質条件に合ったものを植栽する。

図 3-5-1-8

植栽雑木林-4, 5, 6, 7, 8  
緑化計画図

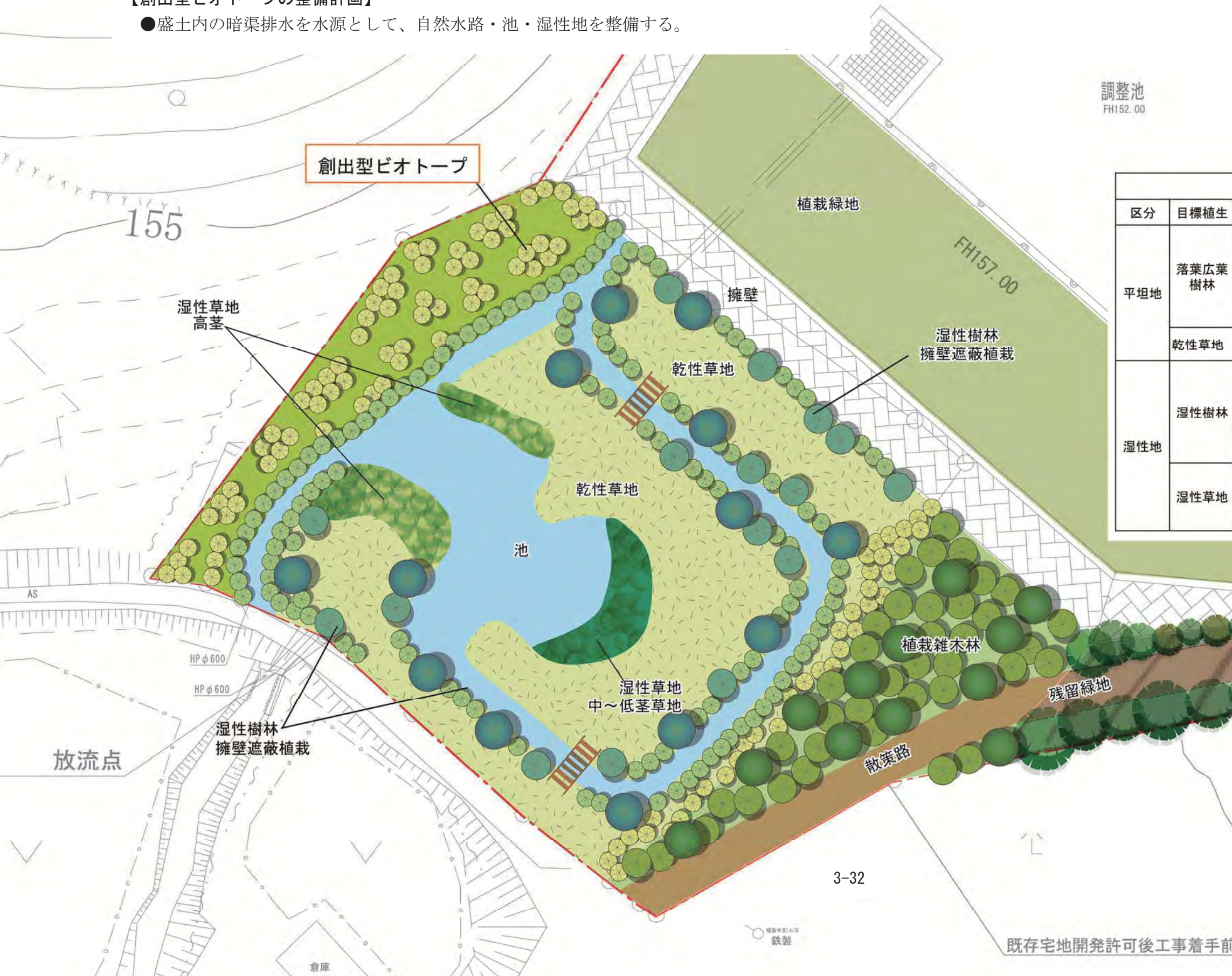
■植栽湿性緑地（創外型ビオトープ）の植栽計画

【創成型ビオトープの目的と整備方針】

- 水環境として、池・自然水路・湿性草地を中心に整備する。
- 地元住民の有志グループ等と協働し、環境学習の場として整備する。

【創成型ビオトープの整備計画】

- 盛土内の暗渠排水を水源として、自然水路・池・湿性地を整備する。



調整池  
FH152.00

創成型ビオトープ(858.97㎡)						
区分	目標植生	種別	凡例	樹種名	本数	備考
平坦地	落葉広葉樹林	高木 (H=2.0m)	●	コナラ、クヌギ、ヤマザクラ、イヌシデ、アカシデ等	12	
		中木 (H=1.2m)	●	エゴノキ、リョウブ、ムラサキシキブ等	38	
		低木 (H=0.3m)	●	アセビ、ヤマツツジ、ガマズミ、コムラサキシキブ等	106	
	乾性草地	低茎草地 (H=0.3m)	■	エノコログサ、メヒシバ、ノシバ、チガヤ、カタバミ等	-	
湿性地	湿性樹林	高木 (H=2.0m)	●	ハンノキ、ミズキ等	13	
		中木 (H=1.2m)	●	タチヤナギ、オノエヤナギ、ハンノキ等	16	
		低木 (H=0.3m)	●	ネコヤナギ、イヌコリヤナギ等	126	
湿性草地	湿性草地	高茎草地 (H=1.0m)	■	ヨシ、ツルヨシ等	-	
		中・低茎草地 (H=0.5m)	■	クサヨシ、サンカクイ等	-	

\*樹種については上記を基本とし、土質条件に合ったものを植栽する。

■ : 事業区域

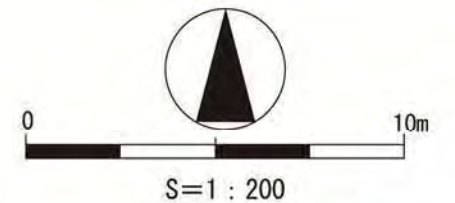


図 3-5-1-9

創成型ビオトープ植栽計画図

既存宅地開発許可後工事着手前

■生垣（接道緑化等）の植栽計画

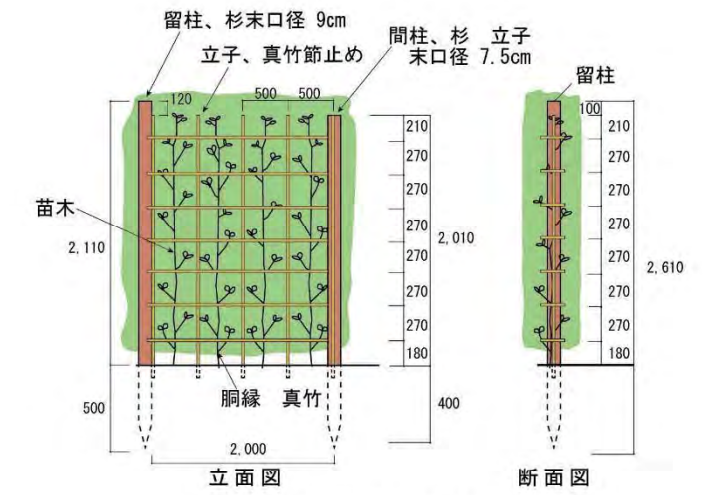
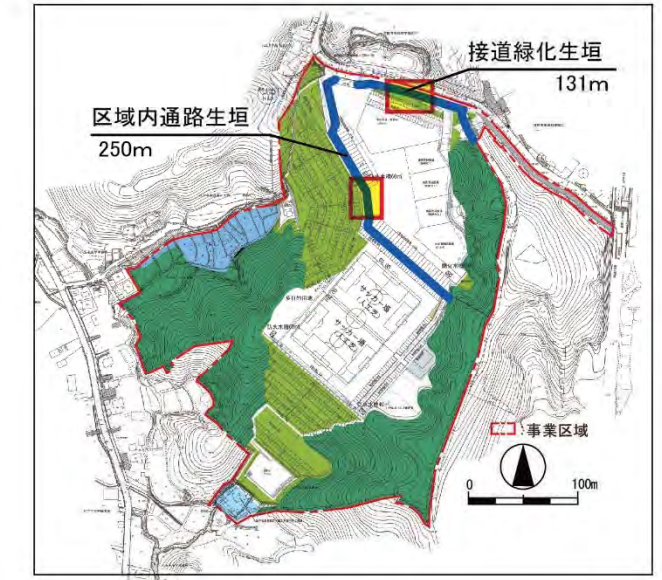
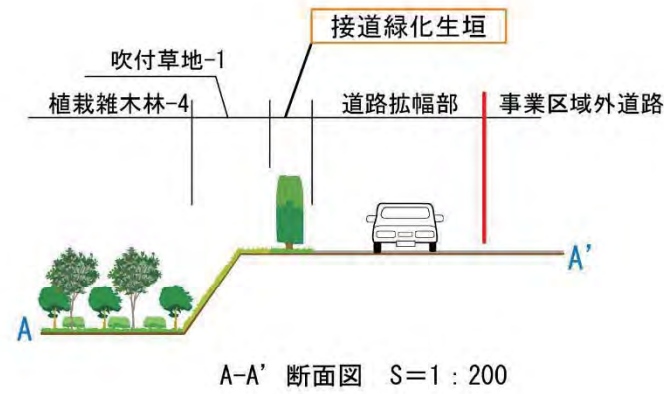
【生垣（接道緑化等）の目的と整備方針】

●公道に接する区域境や、資材置場等と運動施設区域を分ける区域内通路に整備し、景観に配慮する。

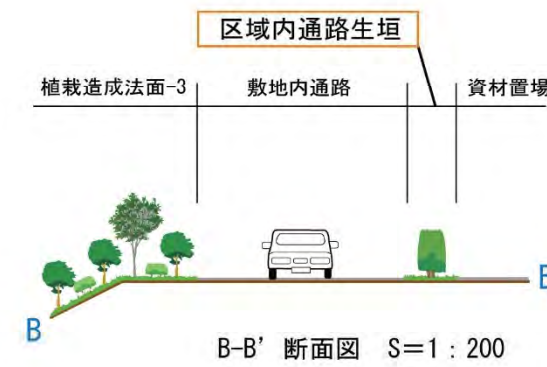
【生垣（接道緑化等）の整備計画】

●景観に配慮し、公道や資材置場・運動施設の境界に生け垣による緑化を行う。

●修景を目的とし、ネズミモチ・サザンカ（中木）等の樹木を植栽する。



生垣(H=2.0m)詳細



緑地区分	植栽計画			数量
	種別	樹種	植栽密度	
接道緑地生垣 131m	中木	ネズミモチ サザンカ、 モチノキ ヒサカキ、 ヤブツバキ等	高さ=2.0m以上 2本/mピッチ	262本
区域内生垣 250m	中木	ネズミモチ サザンカ、 モチノキ ヒサカキ、 ヤブツバキ等	高さ=1.2m以上 2本/mピッチ	500本

\* 樹種については上記を基本とし、土質条件に合ったものを植栽する。

図 3-5-1-10 生垣（接道緑化）植栽計画図

#### 4) その他緑地の計画

自然保護条例上の基準には該当しないが、自然環境への配慮から、「その他緑地」として出来る限りの緑化を行い、生態的機能や景観的機能を持たせる。

##### ①調整池 A の隣接部における緑化

調整池 A の隣接部については、自然回復を基本とした在来種による草地として管理し、草地を好む動植物の生育・生息環境、事業区域内の景観、動物の移動経路としての機能に配慮する。

- 周囲の自然環境からの侵入による自然回復緑化を基本とし、外来種の除去や草刈りを定期的に行う。
- 低茎草地を好む小鳥類等の動物の採餌場とする。
- 隣接する残留緑地や調整池 A 隣接部に生育・生息する野生動植物への影響がないよう、除草剤等の散布は行わない。

##### ②調整池 A・調整池 B の水が溜まる部分の緑化

調整池 A、調整池 B の水が溜まる部分について、池床に水や砂泥が溜まる構造とし、自然回復による湿性地様の環境を創出する。

- オリフィスの位置を調整し、オリフィス高以下に常時水が溜まる構造とする。
- 人為的な植栽は行わず、湿性植物の自然な回復を見守る。
- 調整池の浚渫に合わせて、遷移した植物群落を除去し、乾燥化等を防止する。

##### ③切り土法面の在来種吹き付けによる緑化

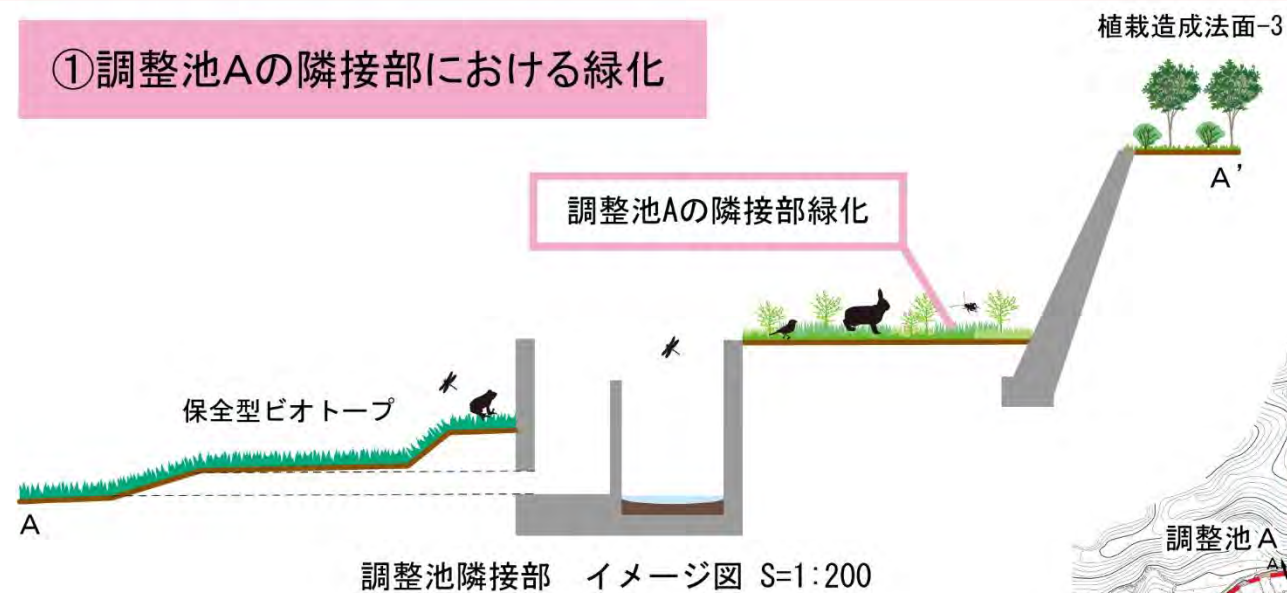
北側の駐車場・資材置き場エリアにある、切り土法面 4 箇所において、斜面崩壊防止のための早期植生の回復と、草地環境を好む昆虫類等の生息環境の回復を目的として整備する。

- 切り土法面は客土の質が安定しないため、樹木による緑化は行わず、草本種子の吹き付けにより緑化を行う。
- 草本種子は在来種を基本とする。
- 定期的に監視を行い、オオブタクサ等の外来種の生育が確認された場合、抜き取りを基本とした除草を行う。
- 定期的に草刈りを行い、草地環境の維持に努める。



図 3-5-1-11 その他緑地位置図

### ①調整池Aの隣接部における緑化



調整池隣接部 イメージ図 S=1:200

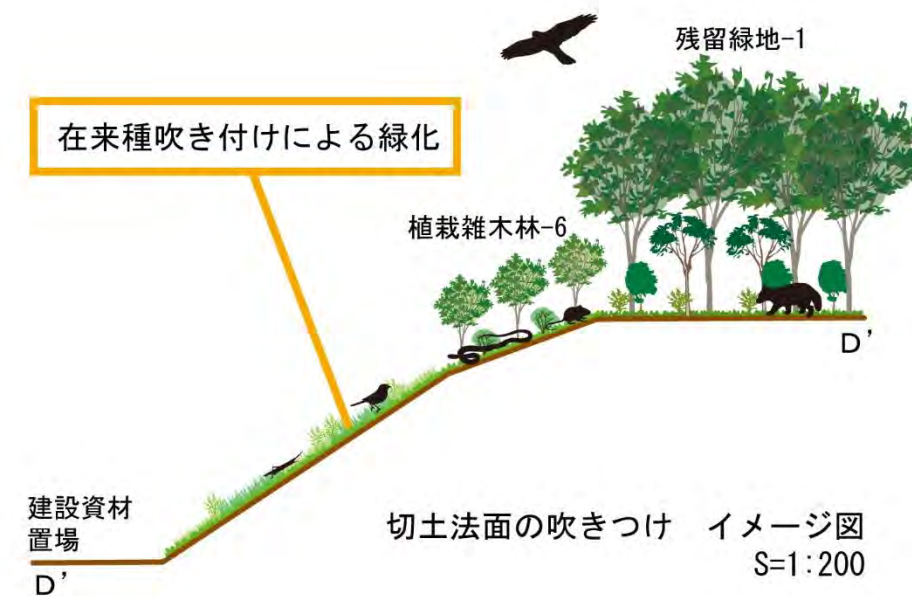
調整池Aの隣接部については、自然回復を基本とした在来種による草地として管理し、草地を好む動植物の生育・生息環境、事業区域内の景観、動物の移動経路としての機能に配慮する。

- 周囲の自然環境からの侵入による自然回復緑化を基本とし、外来種の除去や草刈りを定期的に行う。
- 低茎草地を好む小鳥類等の動物の採餌場とする。
- 隣接する残留緑地やそこに生育・生息する野生動植物への影響がないよう、除草剤等の散布は行わない。

### 植栽造成法面-3



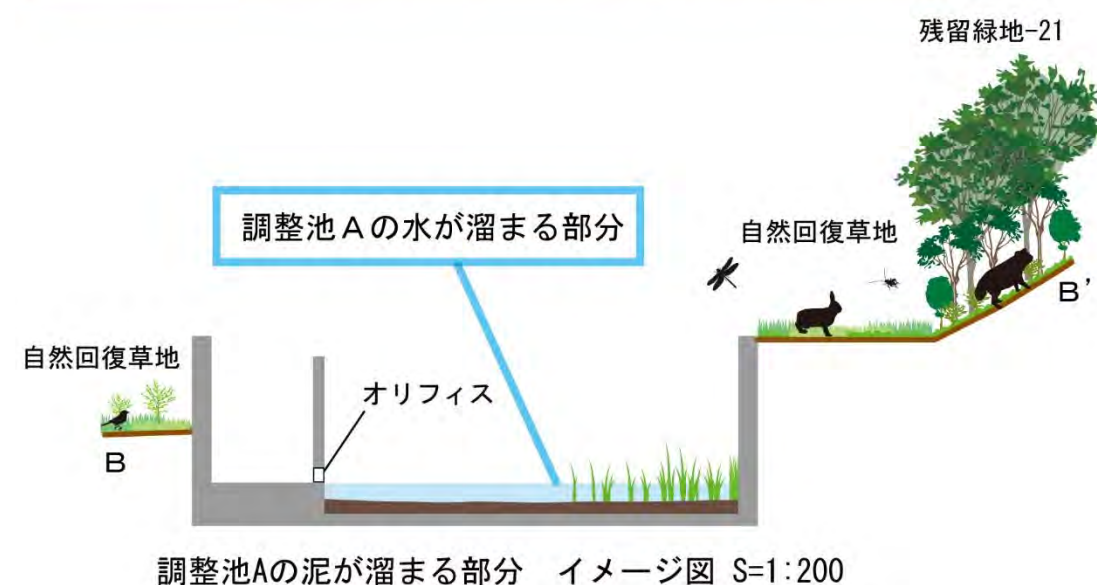
### ③切土法面の在来種吹き付けによる緑化



切土法面の吹きつけ イメージ図 S=1:200

北側の駐車場・資材置き場エリアにある、切り土法面4箇所において、斜面崩壊防止のための早期植生の回復と、草地環境を好む昆虫類等の生息環境の回復を目的として整備する。

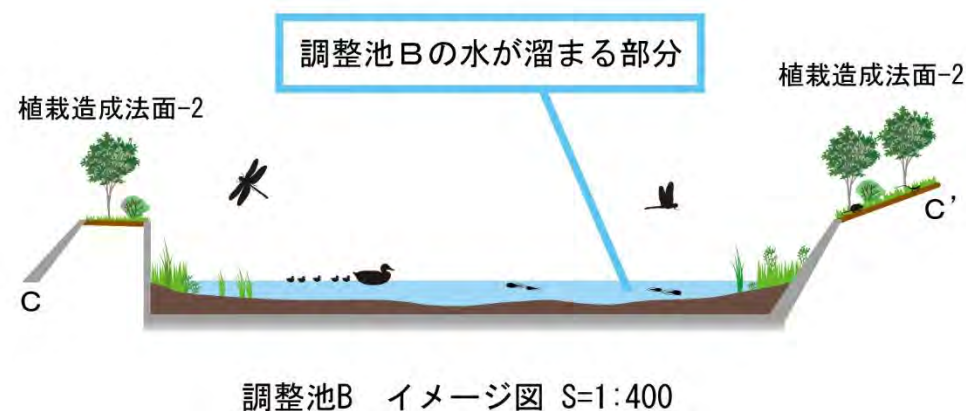
### ②調整池A・調整池Bの水が溜まる部分の緑化



調整池Aの泥が溜まる部分 イメージ図 S=1:200

調整池Aの泥が溜まる部分と、調整池Bの水が溜まる部分について、池床に水や砂泥が溜まる構造とし、自然回復による湿性地の環境を創出する。

- オリフィスの位置を調整し、オリフィス高以下に常時水が溜まる構造とする。
- 人為的な植栽は行わず、湿性植物の自然な回復を見守る。
- 調整池の浚渫に合わせて、遷移した植物群落を除去し、乾燥化等を防止する。



調整池B イメージ図 S=1:400